

普及活動情勢報告（平成29年 1 月 分）

高吾農業改良普及所

山椒の安定生産のために ～越知町山椒組合がせん定講習会を開催～



1月10日、越知町山椒組合が片岡地区でせん定講習会を開催し生産者10名が参加しました。

近年、青果用の朝倉山椒の栽培が増加しており、従来の品種に比べ生育が旺盛などの特徴が見られます。当日は普及所職員が基本的な考え方の説明や実際のせん定を行いました。組合員からは「収穫などの作業性がある」「果実のボリュームアップも期待できる」などの声がありました。

普及所では、技術情報の提供や講習会を行い、山椒の生産振興のため支援を継続していきます。

仁淀川流域の茶生産者が高松市で販売促進活動を実施



1月21日、仁淀川流域茶産地振興協議会の5事業者が高級ブランド店が並ぶ高松市丸亀町商店街で自製茶の販売と宣伝活動を行いました。活動は昨年に続き二回目で産業振興アドバイザー事業による販売力強化研修として行いました。

事業者が店の前で仁淀川流域のPRもしながら試飲・販売しました。普及所は仁淀川流域茶の特徴の説明を手伝いました。アドバイザーからは『販売など目先の対応でなく、地域や自製茶の特徴などを知ってもらう接客ができていた』との評価をいただきました。

普及所ではこの事業に計画から実施まで参画し、販売支援も行いました。これからも同協議会の販売力強化を支援していきます。

イチゴでのミヤコカブリダニバンカーシート利用



高吾管内では殺ダニ剤耐性を持つイチゴのハダニ対策として、ミヤコカブリダニのバンカーシートを設置する方法に取り組んでいます。2年目の今年は7戸の農家が秋にバンカーを設置し、チリカブリダニを併用しながら6戸の農家でハダニ類の増殖を抑えています。

今後普及所では春のハダニ増殖期に向けて、JAやメーカーと協力してカブリダニ追加放飼や春からのバンカー使用などを支援し、天敵を利用したハダニ防除を推進していきます。

ニラ産地の未来のために ～ニラそぐり計量・結束センター運営検討会～



J Aコスモスでは昨年からニラそぐり計量・結束センターが稼動しています。普及所はセンターの課題整理や農家による作業研修開催の支援、関係機関の連携強化を進めてきました。

1月19日には運営検討会が開催され、受け入れ基準が決まりました。農家から「みんなで気持ちをひとつにしていかないと続かない」と檄が飛ぶ場面もあり、参加者はセンターの重要性を再確認しました。

今後も普及所では、担い手支援のためにセンターの安定運営を支援していきます。

さんさん市出荷部会による栽培講習会



1月22日、むらの駅日高さんさん市出荷部会主催による栽培講習会（第3回）が開催されました。

直販所出荷者向けの簡易ハウス整備に村が助成してくれることになり、今回受講生のうち2名の方が助成を受けることになりました。そこで、出荷部会役員による露地作型と雨よけ作型を組み合わせた春蒔き野菜の作付け体系の説明と、普及所による春に多い害虫の種類について説明を行いました。

生育状況は出荷部会のメンバーが見守ってくれており、できあがった野菜が店頭に並ぶ日が待たれます。